

「教育旅行 適している」

中国の校長ら 福大附義務校など視察

理科の授業を視察し、教材に目を通す北京市の小中学校長ら＝31日、福井市の福井大附義務教育学校



中国からの教育旅行を誘致しようと県が招いた北京市の小中学校長ら10人が31日、福井市の福井大附義務教育学校後期課程を視察した。一行は「福井は教育が進んでおり、生徒たちを連れてきたい」と好印象を抱いていた。

福井、石川両県が連携し、旅行会社を通じて招いた。一行は同校で7年と9年の理科と7年の家庭科の授業を見学。写真を撮ったり教材に目を通したりした後、生徒の主体的な学びを重視する同校の教育方針やカリキュラムについて牧田秀昭副校長に予定時間を超えて質問を重ねた。中学校長

の陳秀珍さんは「教育理念が素晴らしい、教育旅行に適していると感じた」と話していた。福井県広域誘客課によると、海外から県内への教育旅行受け入れは、18年度はこれまでに9校366人で、そのうち中国から2校90人。17年度は8校299人(中国2校40人)、16年度は14校489人(中国3校105人)。

館を見学した。1日に帰国する。(小林真也)

北京市の一行は28日に石川県入り。30日に勝山市の県立恐竜博物館などを視察してあわら市の温泉旅館に宿泊、31日は同市の藤野厳九郎記念館や鯖江市のめがねミュージアム、若狭町の県年縞博物館